

2011年5月11日

ロシア関連メモ 067

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野 雅人

全ロシア人民戦線構想とその評価

1. 全ロシア人民戦線構想

ロシアでは2011年12月の議会選挙と2012年3月の大統領選挙を控え政治闘争が先鋭化しつつある状況にある。そのなかでプーチン首相は、5月6日にボルゴグラードで開催された「2011年~2012年の南ロシア発展戦略」に関する与党統一ロシア地域間会議において、議会選挙へ向けて「全ロシア人民戦線」(Общероссийский народный фронт : All Russian people's front) を結成することを発表した。これはロシア政界に大きな衝撃を与えている。

当日のプーチン首相のスピーチは、会議の趣旨に沿って、ほとんどが南ロシア地域のインフラ開発や社会政策等を内容とするものであったが、スピーチの最後に突如として「全ロシア人民戦線」についての言及がなされた。発表の仕方が衝撃的であったこともあり、その狙いや影響等についてロシアのメディアによって大きく取り上げられている。

プーチン首相のスピーチの「全ロシア人民戦線」該当部分の要旨は次の通り。

- ・ 統一ロシアの下院選挙候補者の母集団を8月までに選定し、9月の党大会で候補者のリストを最終決定する。
- ・ その選定プロセスには、統一ロシア党员だけでなく、統一ロシアの支持者、労働組合、婦人団体、青年団体、市民団体や個人等、統一ロシアを通じて政府の政策形成に関与する意思を持つ全ての国民が参加できるものとする。
- ・ これを実現するために国民の幅広い層から構成される「人民戦線」を結成する。このアプローチは他国においても歴史的に幅広い政治勢力を結集するときに採用されたものと同様である。
- ・ ロシアを強化し、国家が抱える課題を解決するためのアイディアを見出したいと考える全ての国民に結集を求める。
- ・ 人民戦線の参加者間の関係は完全に平等で、統一ロシアも労働組合も青年団体も全く等しい位置づけとし、上下関係は一切ないこととする。

2. 報道内容

(1)構想の狙い

「人民戦線」よってプーチン首相が狙うもの何かという点については様々が議論がなされているが、最も多く指摘されているのがプーチン氏個人の権力基盤強化である。

最近、ロシアでは、メドベージェフ大統領とプーチン首相の「タンデム」体制及び与党統一ロシアに対する支持率の急速な低下が指摘されている。3月に行われた統一地方選挙でも統一ロシアの得票率が低迷し、また、各種の世論調査においても、支持率低下を示す数値が公表されている。

また、同じく3月に、政府系シンクタンク「戦略研究センター」(Центр стратегических разработок : Center for Strategic Research) が、現在ロシア国民の間に、政治体制全体に対する不信感が急速に高まっており、近い将来深刻な政治的危機が発生する可能性があることを指摘する報告書¹を公表し、波紋を呼んだところである。

プーチン首相はそのような状況に対応し、「全ロシア人民戦線」に与党統一ロシアだけでなく、広範な国民を取り込むことによって政権の支持基盤を強化し、議会選挙における統一ロシア(あるいは「全ロシア人民戦線」)の絶対多数確保を狙うものであろうというのがメディアの一致した見方である。

「人民戦線」へ参加を要請された団体がその要請を拒否することは現実的に困難であり、一旦「全ロシア人民戦線」に参加した者は、それ以降プーチン首相の政策を表立って批判することも難しくなるとの指摘もなされている。

(2)大統領選挙への影響

さらに、今回公表された構想は2012年の大統領選挙をも見据えたものとも見られている。大統領選挙にメドベージェフ大統領が再選されるのか、あるいはプーチン首相が復帰するのかはロシアの将来を決定づける重要なポイントであるが、12月の議会選挙の結果、統一ロシア(あるいは「全ロシア統一戦線」)が絶対多数を占めれば、プーチン氏が強固な支持基盤を持った大統領候補として選出される可能性が極めて高まり、それによってプーチン氏が2012年から12年間(2期)大統領を勤める展望が開けてくる。

モスクワタイムズ紙は社説²において「プーチン首相は全ロシア人民戦線の結成を発表することによって自分自身がロシアの最高権力者であることを再確認し、メドベージェフ大統領の、プーチン氏の庇護から離れて独立した政治リーダーとなる野望を打ち砕いた」としているが、メドベージェフ大統領としても、「ロシアを強化し、国家が抱える課題を解決するためのアイディアを見出したいと考える全ての国民」を結集させようという目的を持つ「全ロシア人民戦

¹ 戦略研究センター「ロシアの政治的危機とその展開メカニズム」(Центр стратегических разработок 《Политический кризис в России и возможные механизмы его развития》: Political Crisis in Russia and the possible mechanism of its development) 2011.3.26 発表。内容についてはロシア関連メモ No.66 (2011.4.12) 参照。

² The Moscow Times 《Putin puts himself out front》(2011.5.10)

線」を批判することは難しく、プーチン氏の権力強化が進むことを許さざるを得ない状況に陥る可能性もある。

(3) 構想への批判

モスクワタイムズ紙は上記の社説において、「人民戦線によるもう1人の（メドベージェフ氏以外の：筆者追記）敗者はロシア国民である。1人の権力欲を満たすための連合を作ること、この国に必要とされる政治的発展への打撃となる」として批判している。

また、元下院副議長で「人民の自由」³党の共同設立者であるウラジミール・リツコフ氏も「過去の人民戦線は、第2次大戦後や共産主義体制崩壊後の東欧で民主化を進め、ナチズム、共産主義の残滓や独裁などと戦うために結成されたものであるのに対し、プーチン氏の『人民戦線』は、個人の権力を維持し、国民からの略奪と人権及び自由の抑圧を続けるための政治的なマシンにすぎず、全く異なるものである」として厳しく批判している⁴。

プーチン首相は5月6日の発表以来、「人民戦線」への参加が想定される団体の代表者との会合を複数回行い、着々と構想の実現へ向けて進めている。今後の議論の展開及び実際の政治的影響等についてさらに注視していきたい。

以上

³ 2010年12月に設立された反政府の立場を取る政党。議会で議席は無い。

⁴ The Moscow Times 《Why Putin created All-Russian people's front》(2011.5.11)